

絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすることの指導 ～絵本の読み聞かせとペープサート劇を組み合わせた事例～			
学部・教科	小学部・国語科	事例コード	2206
学習グループの実態	<ul style="list-style-type: none"> 小学部2学年（通常の学級3名、重複障がい学級5名の合同学習集団） 絵本に対する関心が高く、内容の理解度に差はあるものの、絵本に注目して教師の読み聞かせを聞くことができる。 言葉でのやりとりが多く見られるが、自分の思いを意欲的に伝える児童もいれば、自分からの発信が少ない児童もおり、実態差が大きい。 		
単元(題材)名	『コロちゃんはどこ？～げきあそびをしよう～』		
学習指導要領の内容	国語科／小学部2段階 [知識及び技能] イ(ア)(イ) [思考力、判断力、表現力等] C読むことーエ A聞くこと・話すことーエ		
単元(題材)の目標	知識及び技能 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。【[知]イ(ア)】 遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむことができる。【[知]イ(イ)】	思考力・判断力・表現力等 絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすることができる。【[思]Cエ】 挨拶をしたり、簡単な台詞などを表現したりすることができる。【[思]Aエ】	学びに向かう力・人間性等 言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする。 【小2段階目標ウ】
単元(題材)の計画	総時数7時間 (1) 絵本の読み聞かせを聞き、出てきた動物や内容を確認する。・・・2時間 (2) 絵本を教師と一緒に読む、教師が演じるペープサート劇を見てやってみる。・・・2時間 (3) ペープサート劇のやり方を知り、練習する。・・・2時間 (4) ペープサート劇の発表をする。・・・1時間		
指導の実際	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、教科書として児童に配当された「コロちゃんはどこ？」の絵本を用い、読み聞かせや繰り返しの場面を活かしたペープサート劇を行った。 一人一人が絵本を持ちより、教師と同じ場面を開いて一緒に読んだり、台詞を一緒に確認したりすることで、絵本の内容理解を深め、台詞を表現することへの意識づけをした。 ペープサート劇では、仕掛けを開ける前と後を裏表にすることで、1枚で1つの場面を演じるようにし、操作を分かりやすくした。 絵本を繰り返し読むうちに内容を覚えてナレーター役になったり、友達の姿に刺激を受けて自分からやりたい場面を選び、教師の支援を受けながら台詞を表現したりする姿が見られるようになった。 		



「コロちゃんはどこ？」作・絵：エリック・ヒル（評論社）



場面ごとのペープサート



裏返すと仕掛けを開けた絵になる